

一般社団法人 巨樹の会
新武雄病院

おおくす

2015.08

Vol.14



作品名：「春陽有明」 画：田崎 惠之

Contents

看護科特集／ごあいさつ

新人紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～3

入職式・オリエンテーション・花見・・・・・・4

さくらの樹のご案内／ドリンクサービス・・・・4

院内図書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

コラム「深夜特急に憧れて」・・・・・・・・5～6

人間ドックのご案内・・・・・・・・・・・・・・6

ちょこっとリハ／理念・基本方針

ごあいさつ



看護部長
三島 裕子

地域の方々がいつでも安心して治療を受けられるように、「手には技術・頭には知識・患者様には愛を」の精神を常に忘れずに看護を行うように心がけています。そのためには、看護職員それぞれが患者様やその家族、職員ひとりひとりに関心をもち、よりよい医療サービスを提供できるように考え、皆で話し合い協力し統一した看護ケアを提供することが求められます。連携が図りやすく迅速に対応しやすい小規模病院のメリットを生かし、勉強会や研修会、カンファレンスや委員会・院内巡視などを積極的に行い、地域の方や看護職員が「新武雄病院で良かった」と誇れるような環境づくりに取り組んでいます。

外来

外来は病院の顔という意識を持ち、安心して診療を受けられるよう笑顔と優しい気持ちで親切な対応を心がけています。

救急外来では、365日24時間いつでも迅速に対応し、患者様とご家族のために安全・安心な診察や、治療が受けられるようにスタッフ全員でお手伝い致します。

(外来：安藤 朋子)



4階病棟

4階病棟は脳神経外科、呼吸器外科・内科病棟です。

脳血管障害・頭部外傷・脳腫瘍・脊髄神経系、肺がん・気管支喘息・肺炎、睡眠時無呼吸症候群、呼吸不全など、様々な疾患の患者様が入院されます。人工呼吸器を必要とする方、在宅酸素を導入する方、麻痺や失語症の回復治療を行う方などに、入院時から日常生活援助を行い早期に退院できるようにご家族も含め、支援しています。医師・看護・介護・リハビリスタッフがチームとなって明るく元気な笑顔をモットーに、安心できる医療を提供できるように日々頑張っています。

(4F病棟：山口 直美)



5階病棟

5階病棟には主に脊髄脊椎外科・総合診療科・消化器内科の患者様が入院されています。

火・木曜日の朝には脊髄脊椎外科の医師より講義を受け、知識の向上に努めています。

又、毎日朝の回診があり医師と看護師の連携を図り、創部の状態の観察や処置を行っています。ミエログラフィー検査後に関する看護について6月に北海道で開催される「日本脊髄外科学会」で発表する予定です。

私たちは常に笑顔をもっとに患者様やその家族様とのコミュニケーションを十分図れるよう心掛けています。スタッフ一人一人が協力し合い、日々の業務に取り組んでいます。(5F病棟:友廣しおり)



日本脊髄外科学会に参加してきます



6階病棟

6階病棟は骨折や膝、肩などの整形外科手術、胃や腸、胆石、痔虫垂炎などの消化器外科手術が行われ、その術前術後の看護や抗癌剤治療を受けている方のケアを行っている病棟です。一週間に約15例～20例の手術や2～4人の抗癌剤治療を受け入れています。日々のなかで、カンファレンスや勉強会を取り入れ、安全で安心出来る入院環境を提供できるように知識、技術の向上に努めています。写真は月1回行っている、外科の勉強会です。

医師と6階病棟看護師だけではなく外来看護師や薬剤科と一緒に

行っています。

私たちの病棟のキャッチフレーズは、「笑顔でみんなを癒します。」です。

よろしくお願いします。

(6F病棟:中川みどり)



ICUとは

「ICU=集中治療室」と一般の病棟との違いは、常時「看護師一人が二人の患者様を看守している」ということです。

医師と看護師が最新の医療機器を用いて高度な医療を行っている部門です。私たちは24時間、常に、知識・技術をみがき、暖かい手と声と心を提供できるような看護を、地域の皆様に提供していけるよう努力しています。(ICU:堀田 由)



HCUとは

ICU（集中治療室）と一般病棟の間に位置する準集中治療室の事を言います。平成 26 年9月1日に開設された新しい病棟で、佐賀県で初めて設置された HCU です。患者様4人に対し看護師1人が受け持つ看護体制になっています。患者様もより厳密な観察と看護を必要とする場所



です。看護師どうし協力し合い、患者様に寄り添い暖かな看護を提供できるよう日々笑顔で接しています。

(HCU：小関 崇汰)

手術室・中材

手術室・中材では医療器材の洗浄・乾燥・包装・消毒または滅菌・払い出しを行っています。

手術室で使用された器材は専門スタッフによって仕分け・洗浄され、十分に乾燥・包装をします。滅菌に際しては様々なテストを毎日行い、安全を確認した上で使用しています。手術介助では手洗いと帽子・マスクを着用して感染予防につとめています。同時に患者が安心して手術を終えるように、マスクの下は笑顔をもっとに日々看護業務に取り組んでいます。

(手術室：荒木 沙織)



新人研修

2015年4月1日 新たに18人の看護師が入職しました。

実際、看護する前に看護の基礎である処置・ケア・コミュニケーション技術などの研修を約2週間のプログラムで実施しています。研修会は、院内の Dr・教育担当看護師・医療技術部と院外の先生をお招きし行っています。ミスが直接患者さまに影響する職種であるからこそ、分かり易く、時には厳しく指導・教育し、4月中旬から看護の現場で職にあたっています。新人職員だけでなく、看護を行う全ての職員が、安全で安心できる医療・看護を提供できるよう、日々、自己研鑽に努めています。不慣れな点が多々あるかと思いますが、一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

(ICU：丸本)



入職式・オリエンテーション・花見

4月1日、平成27年度の入職式が行われ、計34名が入職しました。これからこの病院の職員として働くのだと実感し、気が引き締められました。

オリエンテーションでは病院の成り立ちや各部署の紹介を聞き、院内についての知識を深めました。また、感染対策や接遇についての話もあり、今後の業務の中で実践していこうと思えました。

1日の夕方からは保養村のポート乗り場で桜の花見会が行われました。天候が心配されましたが、計180名の参加があり、大変盛り上がりました。部署の垣根を越えて多くの方とお話ができ、親睦を深めることができました。

入職して2か月が経ちましたが、まだまだ覚える仕事がたくさんあります。教えていただいたことを速く確実にこなしていけるよう、努力していきたいと思えます。ご指導宜しくお願ひいたします。
(検査：今村・中原)



新・人・紹・介



●昨年9月より、臨床工学科に入職いたしました。以前は、沖縄県で真っ青な海と美味しい島酒に囲まれた生活を送っていましたが、佐賀県に来てから、温泉三昧の生活を楽しんでいます。これから、一生懸命頑張っていきますので、宜しくお願い致します。(臨床工学科：坂根) / ●平成27年4月より薬剤師として入職しました。慣れないことばかりで不安や緊張もありますが、個性豊かでやさしく頼りがいのある先輩方に支えられて、どうか日々の業務に励んでいます。これからも患者様や医療スタッフの方から信頼される薬剤師を目指して頑張っていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。(薬局：田代) / ●今年から診療放射線技師として入職しました野田基貴です。吉野ヶ里町出身です。診療放射線技師として、より多くの地域の方とふれあい、地域の医療に貢献できるように頑張ります。(放射線科：野田)

さくらの樹

のご案内

営業時間 月～土
10:00～17:00

今年4月より食事処のさくらの樹がオープンしましたのでご紹介致します。

当院1階受付前にあり、内装は落ち着いた色合いで統一され、大きくとった窓は明るく開放的な空間です。

人気メニューは①ロースとんかつ定食②ジェノベーゼとなっており、それ以外にも多数のメニュー及びケーキ等の喫茶メニューもあります。

また、持込みでのお食事も可能ですので、患者様とご家族の面会時などにも、気軽に利用できる場となっております。

更に利用者様に満足いただけるよう、6月下旬より新メニューの提供をスタートしており、「煮込みハンバーグ定食」「和風明太子パスタ」が人気です。いつでもお気軽にお越し下さい。
(地域医療連携室：市瀬、野口)



病棟ディールーム ドリンクサービスについて

皆様からのご要望が高かったため、各病棟にお茶やコーヒーなどのドリンクをご準備しております。

ご入院中の患者様やご家族様に好評いただいております。

各病棟のディールームにおいてありますのでご利用下さい。



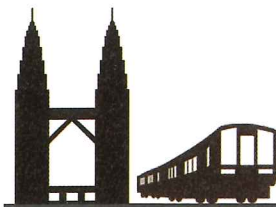
院内図書

当院では、武雄市図書館の団体貸出制度を利用し、入院患者様向けに本の貸し出しを開始致しました。

小説から雑誌まで様々なジャンルの本 30冊の貸出が可能となっております。

現在は6階病棟のみで運用しております。読書によって患者様により快適な入院生活を送って頂ければ幸いです。





「深夜特急に憧れて」

リハビリテーション科 言語聴覚士 南川 明子



その昔、『深夜特急』というバックパッカーのバイブルとも言われた本があった。インドのデリーからイギリスのロンドンまで乗り合いバスだけで旅をするという、

作者沢木耕太郎の実体験に基づいた紀行小説で、後にドラマ化もされた。

現地の人々に混じりながら、当てもなく、時間の制限もなく旅をする。憧れに想いを馳せるも、現実に私に与えられたのは短い時間。気分だけでもと思い立ち、マレー半島へ飛び立った。マレーシアのクアラルンプールから、シンガポールまでのバス一人旅。『深夜特急』では、インドのデリーが出発なのだが、実際は、デリーに到着するまでのアジア編があり、マレー半島の旅も登場する。

旅のスタートの地クアラルンプールに到着したのは、この街のシンボル、ペトロナスツインタワーが煌々と輝く夜遅くだった。この街には15年程前に一度訪れたが、随分洗練された印象を受けた。以前はもっと汚い、臭い、危ない、そんな感じがあった。そう感じないのは、街の変化のせいなのか私の変化のせいなのか…。そんなことを思いながら、翌朝、向かったのが、クアラルンプールの郊外にある Batu Caves というヒンドゥー教の聖地の洞窟である。昔感じた匂いを感じたような気がした。272 段の急な階段を上った先に目指す場所はある。観光客も多く訪れるが、そこに集まるのは熱心なヒンドゥーの信者である。観光客とは違い、彼らは裸足でこの階段を上っていく。私たち日本人から見ると、このような宗教に対する思いは、感心するばかりだ。小さな子供から、高齢者まで、登るペースは違えど、誰もが同じ場所を目指して登っていくのだ。その到達地点には、なんとも神秘的な空間が広がっている。そして、登ってきたのだから、当然、降りなければならない。この急勾配は恐ろしかった。ちょっとでも躓いたら…と想像すると、景色を観る余裕などなかった。ただひたすら、自分の足元だけを見て272 段を下りきった。

そんなクアラルンプールでの時間を過ごし、いよいよ乗り合い

バスで移動する。目指すは、世界遺産の街マラッカ。『深夜特急』で、夕陽が綺麗な街として、その夕陽を目的に主人公が立ち寄る街。2時間程の道のりが300 円程である。どんなに過酷な旅になるのかと想像(期待)したが、エアコン完備のフットレスト付きの豪華なバスだった。マラッカは観光の街で、いたるところに派手な装飾をしたトライショーと呼ばれる自転車おじさん達がいる。これに乗ってみるのもいいが、観光エリアは歩いて回るのも悪くないくらいの大ささの街だ。マレーと中華の文化に、西洋の文化が融合した美しい街の小さなカフェで、「アイスコピ、プリーズ」と、地元民気取りで注文してみる。シンガポールやマレーシアの地元コーヒーは「コピ」という可愛いネーミングで呼ばれている。練乳たっぷりのコーヒーだ。1杯100 円もしない。こんな風に、コピを飲みながら、毎日、自然の風に吹かれて、ぼんやり過ごしたくなる。最近、マレーシアが日本人の退職後のロングステイ先として人気があるということに納得してしまう。ロングステイできたら、綺麗な夕陽も観ることができたらうに…。たった1日しかチャンスがなかった私は、曇り空と小雨に美しい夕陽は奪われてしまった。

泣く泣くマラッカを後にし、シンガポールへ向かった。またまた、800 円程度での4時間の豪華旅だった。島国の日本人にはなかなか体験できない、陸路での国境越えにテンションが上がったが、人が多く、ちょっと不安になった。同じバスに乗っていた強面のおじちゃんが、「こっちだよ」と声をかけてくれた。おじちゃんが、ヒーローに見えた。もっと早くにおじちゃんと話してみればよかった。残りわずかの距離になっていたが、終点まで、おじちゃんとおしゃべりをしながら過ごした。旅のゴール、シンガポールでバスを降り、見送ったおじちゃんの背中に妙に哀愁を感じた。

シンガポールはもう8回ほど訪れている。安心からだろうか、なんだか、急に私は墮落した旅人になってしまった。そこまで、わずか千円ほどの交通費で移動してきたのに、その夜は高級レストランで二千元ほどの海南鶏飯を食べってしまった。マラッカで、マラッカ風海南鶏飯を食べ損なったことを



悔いていたことも、影響していたかもしれない。

シンガポールは旧正月前の熱気に包まれていた。街歩きの途中、私は、観光船乗り場のおじちゃんと意気投合した。別れ際におじちゃんが「お土産だよ」と赤い封筒をくれた。割引券か何かだと思って、お礼を言って別れ

た。しばらくして開封してみると、2シンガポールドル札が入っていた。どうやら、お年玉だったらしい。

『深夜特急』気分の旅。こうやって締めくくってみれば、愛すべきおじちゃんたちとの出会い旅だった気がする。



人間ドックのご案内

年に1回は自分の身体の事を知り、健康管理に努めましょう!!

みなさんは、自分の身体の事をどのくらい御存じですか。自分は大丈夫。その油断が危険信号です。「がん」「心臓病」「脳卒中」といった生活習慣病は、長い年月をかけ進行するものがほとんどです。自覚症状が現れてからでは手遅れになる事もあります。まずは、健康診断を受け自分の身体を見つめなおしましょう。**※健康保険を利用した受診は出来ません。**



予約から健診までの流れ(当院は**完全予約制**です)

お申し込み

受診希望日の2~3週間前までに
お申し込み下さい。

胃の検査をご希望の方は、胃カメラか
胃透視(バリウム)を選択して下さい。



書類送付

ご予約後、コースに合わせた
問診票などの関係書類を
お送りします。

中身をしっかりご確認ください。



健診当日

事前に送付した書類に記入し、
検体・保険証をご持参の上、
当院健診室までお越し下さい。
受付後、検査へご案内致します。



ご予約・お問い合わせ

なっとく ドックに

☎ 0120-791092

受診日/月曜日~土曜日(日・祝日は休診)
お気軽にお問い合わせください

〒843-0024 佐賀県武雄市武雄町大字富岡12628番地 TEL/0954-23-6444(直通) FAX/0954-26-8193(直通)
E-mail/kenshin@shintakeo-hp.or.jp



◆表紙の絵について

この絵は有明海を描き続けて有名な郷土の田崎画伯の作です。そして、先生は佐賀西高の時代、当院の呼吸器内科の池上先生の恩師にあたられ、また僕の中学校の時代の絵画の先生、大久保画伯と兄弟弟子にあられるそうです。偶然ですが、田崎・大久保両氏の絵画の先生が、佐賀県の絵画界の大物であられた石本秀雄氏で、奇しくも、93歳になる私の母の佐高女時代の絵画の先生だったそうで、一枚の絵がおりなす不思議な縁を感じさせられました。(理事長:鶴崎)

◆田崎恵之先生について

1934年、武雄市北方町生まれ。佐賀大学卒、美術教育の指導者を志し画業の研鑽をつむ。1975年、日展初入選(以後18回入選)日展会友となる。その他、日洋展で三越賞、現洋展で現洋会賞を受賞。上野の森美術館・日本の自然を描く展で環境庁賞。上野の森美術館絵画大賞展で佳作賞を受賞する。郵政省郵便絵葉書・九州の自然と祭り・「さが」。佐賀姿勢100周年記念郵便葉書「佐賀の風景」を描く。

当院ロビーに飾らせていただいております。ぜひゆっくりご覧下さい。



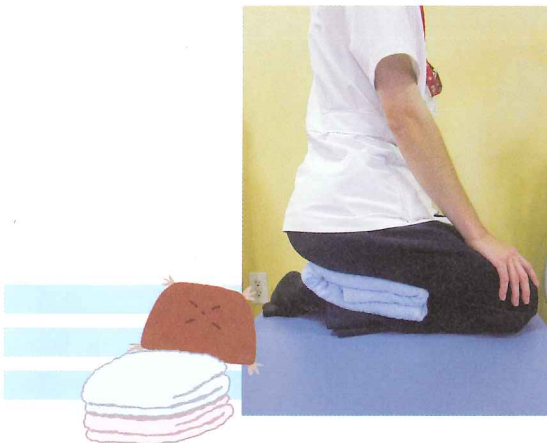
ちょこっとリハ



★ 膝の痛みがある方へ

膝の半月板等の構成体に異常が生じると、正座が困難になります。正座を避けることが一番いいと思いますが、日本の和式生活には正座をしないとイケない場面って多いですよ。最近は椅子がおいてある施設も多くなりましたが、どうしても正座をしないとイケない時には、タオルや座布団を膝の間に挟んであげることで膝の曲がる角度を和らげることができ、膝の痛みの発生を軽減できますよ。是非試してみてください。

リハビリテーション科



● 理念・基本方針

PHILOSOPHY AND BASIC POLICY

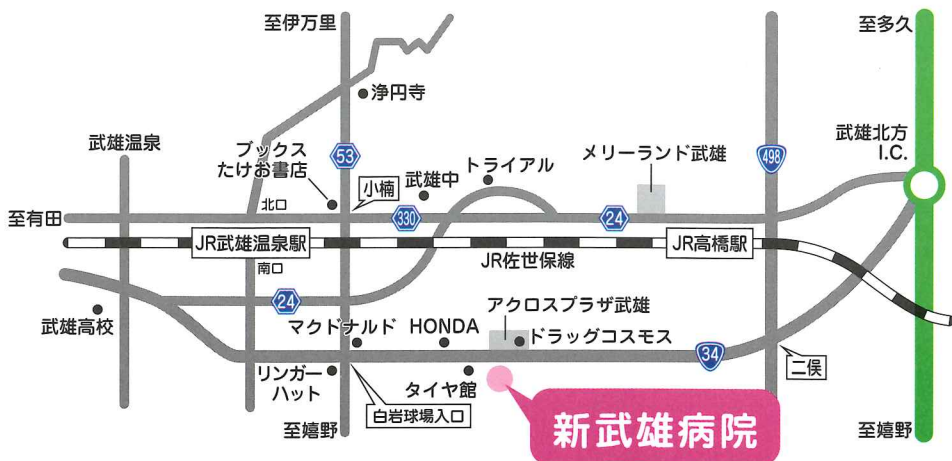
● 理念 「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」

● 基本方針

高度医療 | 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

チーム医療 | 患者様の目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援まで、ニーズに沿った医療を提供します。

地域医療 | いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療施設・福祉施設と密接な連帯を推進します。



■ 診療科目

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科
 外科・整形外科・リウマチ科・脳神経外科
 呼吸器外科・泌尿器科・放射線科
 リハビリテーション科・救急科・肛門外科

■ 診療時間

午前 9:00 ~ 12:00(専門外来)

午後 2:00 ~ 5:00

※但し、急患の場合はいつでもただちに診察致します。

● 〒843-0024 佐賀県武雄市武雄町大字富岡12628番地 ● E-mail info@shintakeo-hp.or.jp
 ● TEL 0954-23-3111 ● FAX 0954-23-0208 ● ホームページ http://www.shintakeo-hp.or.jp